

第4回大学提携授業

2015.02.19 追手門学院大学 優駿ホール

「現代人の食意識 — 食の哲学・社会学 —」

講師：追手門学院大学 社会学部 山本 博史教授

講義の概要・要約

情報化社会とよく言われますが、私たちは自分の舌でものを食べずに、情報に振り回されてものを食べているのではないか。

TVでダイエットにいいという理由で、突然バナナが飛ぶように売られて品不足になったり、産地偽装・原材料偽装・メニュー偽装などの食品偽装の背景には確かに情報という問題があり、その情報に私たちは踊らされているのは確かだと思います。

先生がむすびで、「食」が何であるか忘れてしまい、“人と自然との関係が崩れてしまった崩食の時代を続けるのか、それともつなぎ直された関係を生きるのか”という問いに、私たちが、「食」を通して、生き方が問われていることを理解し、対応して行きたい。

(歴史茨木1期生の1班のまとめより)





「今日の一言」抜粋

- 日頃食について深く考えることがなかったが、この講義で改めて食について考える機会を得た。
- 食についてあまり考えない過ごし方をしていた。確かに生かされるために食することをあらためて認識した。
- あまりにも身近すぎる食について考えても見なかった事柄に、真正面に向き合ってこの歳にして「生きていること、生命あること」に感謝の思いを深めさせていただきました。自他共の生命のサイクル、心して今日一日を大切にすべし！ 飽食は崩食か？
- 2年間、4回の大学提携の講座を受け、新しい生きた学問の知識を知ることは本当にうれしかったし、現に生活の中で考えさせるものがたくさんありました。ありがとうございました。
- 現代人にとっての食意識の講座は大変に興味を持つことが出来ました。意識して食事をすることは

なかったのですが、今一度食について考えることの大切さを教わりました。

大量の生命の破壊で私たちは生命を頂いていることを感謝しています。

- 「食」は生命の大量破壊であり、「飽食」日本の日々食事の向こう側に何も見えてこない。食の大切さを痛感し、大切にしたいと思います。
- 食の哲学・社会学の側面から講座を聴きましたが、専門的用語のため、理解が難しかったが、食を通して私たちの生き方を問われているとのことを結びで述べられ納得できました。